令和６年 10 月１日

栃木県知事　福田 富一　殿

栃木県教育委員会教育長　阿久澤 真理　殿

宇都宮市石井町 3360-1　栃木県立宇都宮東高等学校内
栃木県立宇都宮東高等学校・同附属中学校同窓会
会長　上野　修一

宇東高の中等教育学校への再編案について改善を求める請願（陳情）

栃木県教育委員会は令和６年１月、少子化社会の進展に伴う生徒数の減少に対応するため第三期県立高等学校再編基本計画を策定し、宇都宮東高校は高校での募集を停止し、全生徒が中学から入学する中等教育学校に転換、１学年定数を現在の１６０人から４０人減の１２０人にする計画を示しました。

県教委はこの計画について、生徒数の減少に対応するものではなく、中高一貫教育をさらに発展、充実させるため中等教育学校へ再編するものと説明。再編に伴い単位制授業の導入など少数精鋭による難関大学を目指す、さらなる進学校に特化した編成にするとも説明しています。

私たち同窓会は、再編計画の基本的方針には賛同しておりますが、宇都宮東高校に関する再編計画の中で、いくつかの内容に問題があり、特に定数減は県教委が示す適正規模を逸脱しており、中学及び高校教育の基本的なあり方に深刻な懸念が生じると危惧し、県教委に対して改善を要望して参りました。

具体的には令和６年２月、県教委の担当者を招き説明会を開きましたが、経緯の説明のみで疑問や懸念を払拭できるものではありませんでした。そこで３月２５日付で県教育長宛に、①１学年定数１６０人を維持する②男女の定数比率をそれぞれ５０％とする③再編、改編計画策定に際しては同窓会やＰＴＡなど関係者へ丁寧な説明や意見聴取を行い理解を得る、の３項目の要望書を提出しました。

我々は３項目の中でも、定数削減を最も重視しています。県教委は基本計画では、高校の適正規模を１学年１６０人から３２０人としていたにも拘わらず、何故に、宇東高を改編する中等教育学校の規模を、当初から１４０人としたのか。さらに地区別説明会やパブリック・コメントで「他の公私立中学校への影響が大きいため再考すべき」との意見を受けたとの理由で、１２０人に減員したのか、我々は納得がいきません。全県から応募可能な制度の中で、２０人程度の増減が本当に他中学校に大きな影響があるのか極めて疑問です。

中学、高校時の教育は、多感な成長期にある生徒に最も重要な時期です。勉学はもとより運動や文化部活動、学校行事をとおして培われる協調性、社会性そして豊かな人間性の育成に極めて大切です。そのためには必要充分な学校規模を確保することが不可欠だと我々は考えます。現在の１学年１６０人の下でも部員不足により廃部が相次いでおり、生徒たちが望む多様な部活動に支障が出てきているのが現状です。学力を偏重するあまり、個性豊かな人間形成の場が制限される教育現場の創出には懸念を抱かざるを得ません。

私たち同窓会は、保護者会さらにはこの趣旨にご賛同いただける関係者の方々と共に、栃木県及び栃木県教育委員会に対して改善を強く望みます。

以上の趣旨から下記のことを請願（陳情）いたします。

記

１　１学年の定数は現状の１６０人を維持する。

２　男女の定数比率をそれぞれ５０％とする。

３　再編、改編計画の策定に際しては、同窓会やＰＴＡなど関係者へ丁寧に説明し、意見聴取を行い理解を得る。

署名欄　（※ 氏名・住所は「〃」などと略さずに、全てご記入下さい）

氏　　名	住　　所